

既存水族館施設利用について

本日は、委員会に出席できず失礼します。

ここに提案します内容の前提としまして、基本構想委員会の決定事項を覆すことや、現在の水族館運営・飼育の方々の要望を無視して一方的な考え方を提示することを目的としておりません。総論として、水族館界をリードしてきた葛西水族園の未来に大きな期待を抱いているファンとしての発言です。委員の皆様の本音として、もっと大きなメイン水槽を持ちたいと願っているのではないかと思います。初期投資と運営コストを抑えながら、かつ今までにない地球環境を考慮した健康的な水族館施設づくりを希望します。

既存水族館施設利用について、今まで「本委員会では議論できない」と事務の方々からは注意されつつも、今の段階を逃しては後戻りできない段階にあると思いますので、意見を簡潔にまとめました。

まずは、委員会の意見として、3ページに書かれています内容を下記のように付記させていただくことを希望します。(発言の意図をもう少し明快にするため)；

○ 地球環境問題を踏まえつつ、施設や展示の作り方を考えるべき

→地球環境問題を踏まえつつ、既存水族館施設を改修して使用できる機能(註：例えば、来園者共用スペース、教育普及部門、飲食部門、管理運営部門の一部、展示部門の一部小水槽など)と新規に建設せざるを得ない機能(註：大型水槽と飼育設備機能)を整理して、全体構成を考えるべき

○ 水族園敷地にとどまらず、海辺や既存施設等、周辺施設等との一体的活用を考える必要

→水族園は公園の一部ではなく公園敷地全体で考え、公園内の海辺(なぎさ)や既存水族館施設や展望台施設等、体験を伴う教育効果を考えて周辺施設等との一体的活用を考える必要

○ 整備コストは、水槽の総水量に準じる面もあり、引き続き精査が必要

→整備コストは、水槽の総水量に準じる面もあり精査とともに、既存水族園の躯体を利用して、新規に建設する面積を抑えることによってより経済的なコストを考える必要

以下は補足説明です；

どのくらいの大きな水量を有する飼育環境を得ることができるかと、建設コストや運営コスト等の経済性のことや既存施設解体時の地球環境問題などの現実の問題とのどこで着落するかをもう少し検討することが必要ではないかと思います。

既存水族館施設において、バリアフリー等のアクセシビリティ改善のため、また、特に飼育設備の老朽化や水槽の劣化が進んでいる状況は理解しておりますが、外壁やトップライトの健康度が著しく低いものではありません。

どのような施設であれば、最小限の改修で既存の水族館躯体利用ができるかを検証させていただきたく、改めて既存水族館の再利用委員会の設立を強く望みます。

いずれ新施設移転後に行う予定の既存施設のあり方検討を行うわけです。その機能を考える際、水族館施設と大きな関わりがある施設になるはずです。その検討を一部前倒しして、今年度に「活用案」と「事業性」の検討の準備作業を行っていくことを提案します。その作業主体は本委員会の中でも結構ですし、並列して別委員会としていただいても良いと思います。

以上